

閉会のご挨拶に代えて

お茶の水女子大学理系女性教育開発共同機構
加々美勝久

このたびは、第3回統計教育シンポジウム「小中高の体系的指導で育てる統計的問題解決」にご参加いただき誠にありがとうございました。

新型コロナウイルスの感染のリスクを少しでも減らすために、一堂に会してのシンポジウムを開催できず、参加を楽しみにされていた皆様には多大なる御迷惑をおかけいたしました。

ご存じのように本学附属学校園では、附属学校の連携の良さを活かし、「『データの活用』の授業」として小中高における統計の実践をまとめ、先生方に提供して参りました。

本シンポジウムでは、いよいよ新年度からの小学校での新学習指導要領の全面実施、令和3年度に始まる中学校の学習指導要領の実施を視野に入れ、さらに本学附属小中高等学校で実践を行ったものを発表させていただきました。

私たちも試行段階の部分もあり、十分ご満足いただけ無かった点もあるかと思えます。率直なご意見等をいただければ幸いです。

いま統計を学び、統計的な考え方を身に付けることは、これからの社会を生きる上で必要な素養であると考えます。

ところで、3月18日のNHKの報道で「「アビガン」を投与しなかった場合は、ウイルス検査の結果が陽性から陰性になる日数の中央値が11日だったのに対し、投与した患者では4日だったということです。」という表現がありました。これまであまり耳にすることのなかった「中央値」という言葉が用いられたのは印象的でした。このように日常的な基礎力として認識されつつのかもしれない。

最後に、「安全安心」が一緒に語られる場面がありますが、「安全」は数学的に計算できる場合もあり、事を決断する際に情報提供できますが、「安心」は数学の力がおよばない領域であることを意識できることも必要だと考えます。統計をきちんと学んだ子どもたちが、これからの社会でそのような認識を持って進むようになってほしいと願っております。

私たちはこれからも実践を続けて参りますが、さらに皆様からご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

これをもって閉会のご挨拶に代えさせていただきます。